

重症心身障害医療における 医師臨床研修および医学部学生実習の実態 —アンケート調査から—

小林 信や[†] 平松公三郎¹⁾ 西本幸弘²⁾ 會田千重³⁾ 石田修一⁴⁾ 井上美智子⁵⁾
大坂陽子⁶⁾ 佐藤智彦⁷⁾ 滝澤 昇⁸⁾ 舟川 格⁹⁾ 松田俊二¹⁰⁾ 山本重則¹¹⁾
横井広道¹²⁾ 宮野前 健¹³⁾ 中川義信¹⁴⁾ 重症心身障害臨床研修検討ワーキンググループ

IRYO Vol. 67 No. 10 (404-410) 2013

要 旨

国立重症心身障害協議会は、重症心身障害医療における医師臨床研修および医学部学生実習の実態についてのアンケート調査を実施した。対象は機構病院と国立精神・神経医療研究センターの合計144施設、調査期間は平成24年8月1日から8月31日とした。結果から、重症心身障害医療施設で超・準超重症児者の割合が多い病院は38%を占めていた。重症心身障害医療施設の57%が臨床研修または学生実習を「アーリー・エクスポージャー」、「地域医療」、「小児科」として受け入れていた。重症心身障害医療施設は機構以外の病院からも臨床研修を受け入れていたが、機構の基幹型臨床研修病院の重症心身障害医療施設への研修医派遣は19%であった。研修プログラムへの機構の基幹型臨床研修病院における認知度は低かった。以上より、より多くの重症心身障害医療施設が臨床研修および学生実習を受け入れ、機構基幹型臨床研修病院に重症心身障害医療への研修医派遣をすすめていく必要がある。

キーワード 重症心身障害, 臨床研修, プログラム, アンケート

国立病院機構東長野病院 外科, 1) 国立病院機構長崎病院 小児科, 2) 国立病院機構和歌山病院 小児科, 3) 国立病院機構肥前精神医療センター 精神科, 4) 国立病院機構まつもと医療センター中信松本病院 小児科, 5) 国立病院機構南岡山医療センター 小児科, 6) 国立病院機構あわら病院 小児科, 7) 国立病院機構岩手病院 脳神経外科, 8) 国立病院機構富山病院 小児科, 9) 国立病院機構兵庫中央病院 神経内科, 10) 国立病院機構愛媛医療センター 臨床研究部, 11) 国立病院機構下志津病院 小児科, 12) 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 小児整形外科, 13) 国立病院機構南京都病院 小児科, 14) 国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 小児脳神経外科, † 医師

別刷請求先: 小林信や 国立病院機構東長野病院 〒381-8567 長野市上野2-477

(平成25年4月19日受付, 平成25年9月13日受理)

e-mail: qova844n8@pluto.plala.or.jp

Questionnaire Survey of Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID) Medicine Clinical Practice and Medical Students for Clinical Training Programs

Shinya Kobayashi, Kozaburo Hiramatsu¹⁾, Yukihiro Nishimoto²⁾, Chie Aita³⁾, Shuichi Ishida⁴⁾, Michiko Inoue⁵⁾, Yoko Osaka⁶⁾, Tomohiko Sato⁷⁾, Noboru Takizawa⁸⁾, Itaru Funakawa⁹⁾, Shunji Matsuda¹⁰⁾, Shigenori Yamamoto¹¹⁾, Hiro-michi Yokoi¹²⁾, Takeshi Miyanomae¹³⁾, and Yoshinobu Nakagawa¹⁴⁾ (working group to promote the clinical practice of SMID medicine), NHO Higashinagano Hospital, 1) NHO Nagasaki Hospital, 2) NHO Wakayama National Hospital, 3) NHO Hizen Psychiatric Center, 4) NHO Matsumoto Medical Center Chushinmatsumoto Hospital, 5) NHO Minami-Okayama Medical Center, 6) NHO Awara Hospital, 7) NHO Iwate Hospital, 8) NHO Toyama Hospital, 9) NHO Hyogo-Chuo National Hospital, 10) NHO Ehime Medical Center, 11) NHO Shimoshizu National Hospital, 12) NHO Shikoku Medical Center for Children and Adults, 13) NHO Minami-Kyoto Hospital, 14) NHO Shikoku Medical Center for Children and Adults

Key Words: Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID), clinical practice, program, questionnaire

はじめに

国立病院機構（機構）の重症心身障害医療を提供している73施設と国立精神・神経医療研究センターから成る国立重症心身障害協議会（協議会）は、次代の医師を育てることを事業の一つとして取り組んできた。平成23年度には重症心身障害臨床研修検討ワーキンググループを立ち上げ、重症心身障害医療施設での臨床研修を促進するために、「重症心身障害医療」臨床研修プログラム¹⁾（研修プログラム）を作成した。そして、平成24年度からの使用に向けて、協議会所属重症心身障害医療施設（重症心身障害医療施設）および機構で重症心身障害医療を有しない施設に配布した。

全国の重症心身障害医療病床数の約半分を担っている協議会所属施設では、重症児（者）へのセーフティネットの維持と医療的水準の維持向上を行う上で、将来の重症心身障害医療を担う若い医師を育成する使命がある。

目 的

重症心身障害医療施設の現状と重症心身障害医療の臨床研修および学生実習の実態を調査し、分析して今後の取り組みの指針とすることを目的とした。

対象と方法

1. 対象：機構病院143施設および国立精神・神経医療研究センターの計144施設とした。
2. 調査期間：平成24年8月1日にアンケート用紙を送付し、8月31日までに回収した。
3. 調査項目：①協議会の重症心身障害医療施設および機構の基幹型臨床研修病院の施設数とその機能分類、②重症心身障害医療施設における臨床研修および学生実習の受け入れ状況、③機構の基幹型臨床研修病院からの重症心身障害医療研修の派遣状況および派遣意思、④「研修プログラム」の活用および認知、とした。なお、調査項目②に関して、平成23年度は研修実績、平成24年度は調査が年度内のため研修計画を記載してもらった。
4. 調査方法：アンケート用紙（表1）を郵送し、Faxで回答を得た。調査実施にあたり、協議会の承認を得た後、協力施設には書面にて調査日

の・方法を説明して調査用紙回収の同意を得た。

結 果

1. 施設と分類（表2）

対象の144施設のうち、重症心身障害医療施設は74施設で、重症心身障害医療施設を有しない施設は70であった。重症心身障害医療施設のうち超・準超重症児の割合が30%を超える施設は28施設（38%）、超・準超重症児の割合が30%未満の施設は39施設（53%）であった。また、強度行動障害を含んだ動く重症心身障害医療の施設は7施設（9%）であった。一方、重症心身障害医療施設を有しない機構の70施設のうち、基幹型臨床研修病院が47施設（67%）、協力型臨床研修病院が20施設（29%）、専修医のみの病院が3施設（4%）であった。

2. 重症心身障害医療施設の臨床研修および学生実習の受け入れ（図1）

重症心身障害医療施設のうち、42施設（57%）がこの医療の臨床研修または学生実習を実施していた。学生実習は23年度が26施設、24年度が27施設であり、初期臨床研修（卒業後2年間の臨床研修）は23年度、24年度とも22施設であった。後期臨床研修（初期臨床研修後の研修）は23年度が9施設であったのが、24年度の受け入れ予定数は16施設に増えていた。

受け入れについては、学生実習では「小児科」と「アーリー・エクスポージャー」がそれぞれ6施設と多かった。初期臨床研修では「地域医療」枠が11施設と最多で、「小児科」、「精神科」各4施設であった。後期臨床研修では「小児科」3施設、「地域医療」2施設であった。

重症心身障害医療への研修医派遣元病院としては「機構以外」が25施設（60%）と最も多く、「機構」のみ4施設（9%）と「両方から」10施設（24%）であった。

3. 機構の基幹型臨床研修病院からの研修医派遣（図2）

1) 派遣の状況

重症心身障害医療施設を有しない47の基幹型臨床研修病院のうち、9施設（19%）が重症心身障害医療施設への研修医を派遣していた。初期臨床研修の派遣は23年度、24年度とも6施設であり、その研修枠は「地域医療」3施設であった。後期

表1 重症心身障害医療の臨床研修および学生実習に関するアンケート

病院名	記載者	臨床研修に関する役職名
1. 貴院はどのような施設ですか？		
重症心身障害施設	超・準超重症児者の割合が30%以上の施設	<input type="checkbox"/>
	超・準超重症児者の割合が30%未満の施設	<input type="checkbox"/>
動く重症心身障害（強度行動障害を含む）施設 <input type="checkbox"/> 、臨床研修施設 <input type="checkbox"/> 、その他 <input type="checkbox"/>		
2. 重症心身障害施設にお尋ねします		
1) 臨床研修医（1日コースも含む）・医学部学生を受け入れていますか？ いる <input type="checkbox"/> 、いない <input type="checkbox"/>		
受け入れている場合：理由（ <input type="text"/> ）		
実績	23年度	24年度（予定も入れて）
医学部学生	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>
初期研修医	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>
後期研修医	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>
2) どのような枠で受け入れていますか？（例：地域医療、小児科等）		
そして、H23年度の実績を教えてください（受け入れ延べ人数）		
医学部学生（ <input type="text"/> ）（ <input type="text"/> 名）、	初期研修医（ <input type="text"/> ）（ <input type="text"/> 名）	
後期研修医（ <input type="text"/> ）（ <input type="text"/> 名）		
3) どの臨床研修病院から受け入れていますか？		
国立病院機構 <input type="checkbox"/> 、それ以外 <input type="checkbox"/> 、両方から <input type="checkbox"/>		
4) 配布した「重症心身障害医療」臨床研修プログラムを使っていますか？		
大いに活用している <input type="checkbox"/> 、参考にしてしている程度 <input type="checkbox"/> 、使っていない <input type="checkbox"/>		
3. 臨床研修施設にお尋ねします		
1) 重症心身障害施設での研修を実施していますか？ いる <input type="checkbox"/> 、いない <input type="checkbox"/>		
実施していない場合：理由（ <input type="text"/> ）		
初期研修医	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>
後期研修医	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>	あり <input type="checkbox"/> 、なし <input type="checkbox"/>
2) 実施している場合、どの重症心身障害施設ですか？（ <input type="text"/> ）		
3) どのような枠で受け入れていますか？（例：地域医療、小児科等）		
そして、H23年度の実績を教えてください（受け入れ延べ人数）		
初期研修医（ <input type="text"/> ）（ <input type="text"/> 名）、	後期研修医（ <input type="text"/> ）（ <input type="text"/> 名）	
4) 各施設に配布した「重症心身障害医療」臨床研修プログラムについて御存知ですか？		
知っている <input type="checkbox"/> 、知らない <input type="checkbox"/> 、		
5) 研修を実施する意思について		
今後積極的に実施する <input type="checkbox"/> 、研修医が希望すれば実施 <input type="checkbox"/> 、実施する予定はない <input type="checkbox"/>		
4. 本年度当初に各施設に配布しました「重症心身障害医療」臨床研修プログラムについてご感想をお聞かせください。		
感想		

臨床研修における重症心身障害医療研修は23年度、24年度ともにみられなかった。

機構の基幹型臨床研修病院からの重症心身障害医療研修は、同じ都道府県にある重症心身障害医療施設へ派遣している場合がほとんどであった。その組み合わせは北海道がんセンターから八雲病院、旭川医療センターから八雲病院、弘前病院か

ら青森病院、東京医療センターから東埼玉病院・神奈川病院・兵庫青野原病院、神戸医療センターから兵庫青野原病院、善通寺病院から香川小児病院、別府医療センターから西別府病院、鹿児島医療センターから南九州病院であった。

表2 施設と分類

重症心身障害医療施設 74 施設	
超・準超重症児者の割合が 30% 以上	28 施設
超・準超重症児者の割合が 30% 未満	39
動く重症心身障害 (強度行動障害を含む)	7
重症心身障害医療を有しない施設 70 施設	
基幹型臨床研修病院	47 施設
協力型臨床研修病院	20
専修医のみ	3

2) 重症心身障害医療へ研修医を派遣する意思(図3)

今後、機構の基幹型臨床研修病院は重症心身障害医療施設への研修医派遣を、「積極的に実施する」が2施設(4%)で、「研修医が希望すれば実施する」が30施設(62%)、「実施する予定はない」が11施設(26%)であった。

4. 「研修プログラム」の活用および認知(図4)

1) 重症心身障害医療施設

この研修プログラムの活用は、「大いに活用している」8施設(19%)と「参考にしている程度」14施設(33%)を合わせても22施設(52%)にとどまり、「使っていない」が18施設(43%)であった。

2) 基幹型臨床研修病院

この研修プログラムを「知っている」が18施設(38%)、「知らない」が25施設(53%)であった。

考 察

協議会の74施設が重症心身障害病棟をもち、それぞれの地域でのセーフティーネットとしての医療を担っている。機構だけに限ると、全国の重症心身障害医療の施設数の37%、病床数の39%を占めている²⁾。協議会所属施設での重症児(者)の入院の受け入れは、昭和41年から始まり、時間の経過とともに入院患者の高齢化とそれともなう病態の重症化が顕著になっている²³⁾。新たな入所者は、濃厚な医療的ケアを要する post-NICU の小児および医療度の高い若年成人が多く占めている²⁾。超・準超重症

児の割合が30%を超え、障害者病棟で看護単位7:1を取得できる施設が38%あった。機構全体をみても、超重症児者数は平成21年度が725人と平成12年度に比べ237人増加しており、医療の重症化がみられている³⁾。一方、重症児(者)の診療を中心的に支える医師の年齢ピークは50-54歳と高くなっており⁴⁾、20-89人の患者を医師1人が受け持っている割合は専任・非専任を合わせて58%で⁵⁾、医師1人で多くの重症児(者)を担当している現状がある。将来、重症心身障害医療がセーフティーネットとしての役割を十分果たすには、次代を担う医師確保が緊急の課題となっている³⁾⁴⁾⁶⁾。

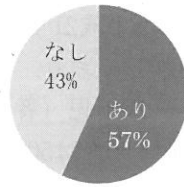
臨床研修制度の中、機構では一般医療全般にわたる研修プログラムのほかに、重症心身障害をはじめ、筋ジストロフィー、神経難病など民間病院では担い難い多様な研修環境を提示してきた⁷⁾。アンケート結果から、受け入れは、学生実習と初期臨床研修が主であり、後期臨床研修(あるいは専修医)の受け入れ施設数は少なかった。平成16年に臨床研修制度が始まり、大学医局から派遣される担当医師の確保が困難となったため、後期臨床研修医を積極的にリクルートし、育成することは医師確保の有効な手段と考えられる⁴⁾。平成24年度の後期臨床研修の受け入れ予定数は16施設に増えており、これからも増え続けることが望まれる。

学生実習は「小児科」、「アーリー・エクスポージャー」として受け入れ、初期臨床研修は「地域医療」としての受け入れが主なものであった。重症児(者)を診療する中から生まれてくる医師としての人格の涵養にも大いに寄与している⁶⁾⁸⁾⁹⁾。また、重症心身障害医療の存在を認知してもらうにはよい機会となっている⁹⁾¹²⁾。

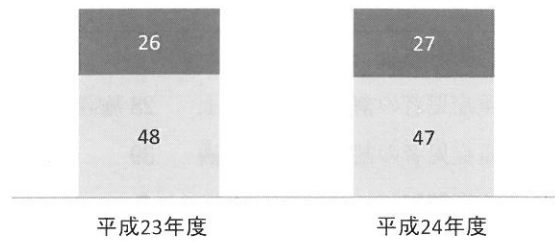
今回の調査では、研修医の派遣元病院は機構以外の病院が多く、新たな担当医確保の機会をもたらすものと思われる。一方、機構病院間の派遣は7病院にとどまった。近くに位置している機構の基幹型臨床研修病院と重症心身障害医療施設で重症心身障害医療の研修を活発化させることが今後の課題である。

重症心身障害臨床研修検討ワーキンググループでは、それぞれの施設で個別に使用されている重症心身障害医療の研修プログラム¹³⁾をもとに、全国の重症心身障害医療施設で利用できる標準化したプログラムを作成した¹⁾。見学に主眼をおいた1日コースと、実習体験できる1週間コースのプログラムを作成し、全国144の協議会所属施設および重症心身障

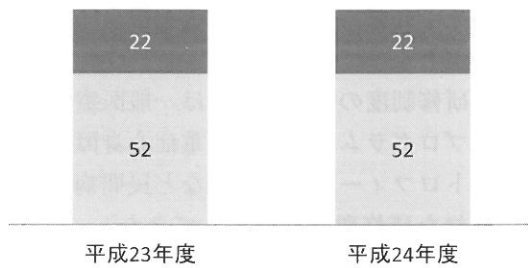
研修・実習の受け入れ



医学部学生実習



初期研修



後期研修

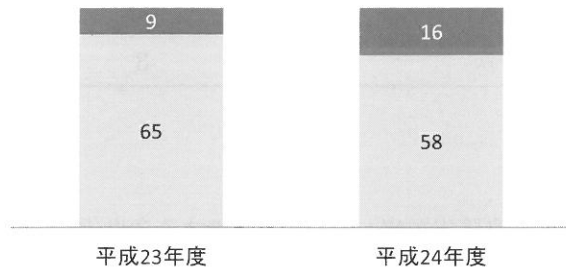
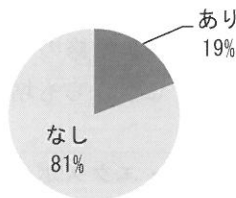
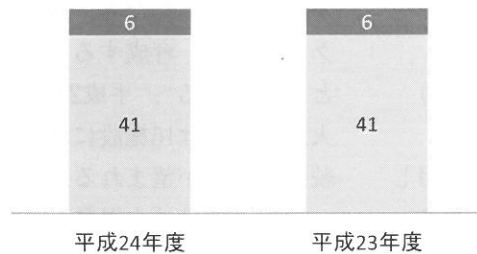


図1 協議会所属施設 (n=74) の臨床研修および学生実習の受け入れ状況 (■あり ■なし)

重症心身障害医療
の研修



初期研修



後期研修

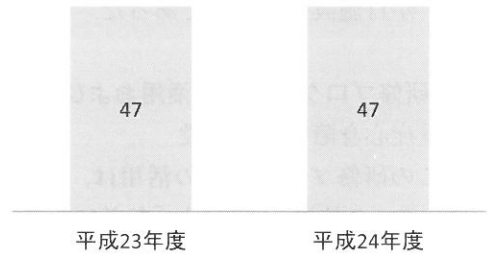


図2 機構の基幹型臨床研修病院 (n=47) からの研修医派遣状況 (■あり ■なし)

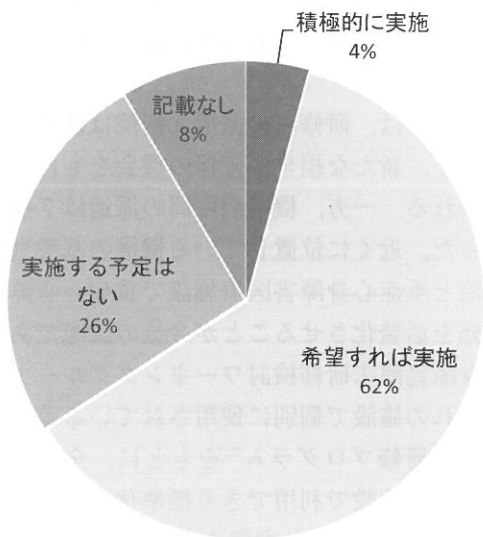


図3 基幹型臨床研修病院における重症心身障害医療へ研修医を派遣する意思

害医療を有しない全機構病院に配布した。重症心身障害医療施設の半数がこの研修プログラムを利用しているが¹⁴⁾、基幹型臨床研修病院での認知度は低かった。ワーキンググループでは、今後機構以外の多くの施設で活用できるように機構ホームページから研修プログラムをダウンロードできるように検討している。

基幹型臨床研修病院から重症心身障害医療施設に研修医を積極的に派遣できていない理由の1つとして、臨床研修医制度の中で「重症心身障害医療」の位置づけがされていないことが挙げられる。まずは臨床医学教育において「重症心身障害医療」が確固たる位置づけを得る環境整備が必要である。それによって、初期臨床研修および後期臨床研修のプログラムの中に「重症心身障害医療」が組み込まれ、この研修を基幹型臨床研修病院が積極的に取り入れる

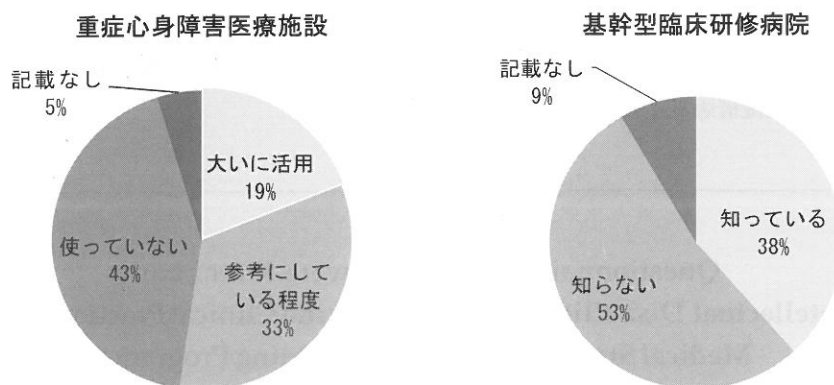


図4 「研修プログラム」の活用と認知

ことを望む。研修を通して重症心身障害医療施設と基幹型臨床研修病院との間で正の循環がつくられ、重症心身障害医療を希望する医師を増やしていくことができると思える。

結 論

1. 重症心身障害医療施設で超・準超重症児者の割合が30%を超える施設は38%であり、この医療を担える医師を積極的に育成する必要がある。
2. 重症心身障害医療施設の半数が臨床研修または学生実習を「アーリー・エクスポージャー」、「地域医療」、「小児科」として受け入れていた。今後、臨床医学教育における「重症心身障害医療」の位置づけが必要である。
3. 機構の基幹型病院から重症心身障害医療施設への研修医派遣は19%であった。機構の基幹型病院の積極的な協力が求められる。
4. 重症心身障害医療施設で研修プログラムは活用されていたが、機構の基幹型臨床研修病院での認知度は低かった。両者がこの研修プログラムを共有して活用することが望まれる。

謝辞：アンケート収集に際し、四国子どもとおとなの医療センター長秘書大石智子様、東長野病院事務長岡田睦様に対し、ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。

[文献]

- 1) 臨床研修検討ワーキンググループ編. 国立病院機構版「重症心身障害医療」臨床研修プログラム. 全国国立重症心身障害協議会. 2012.
- 2) 岩永知秋, 小島一浩. これからの重症心身障害を

考える. 医療 2011; 65: 624-6.

- 3) 佐々木征行. SMID データベース・システムからみた国立病院機構の重症心身障害病棟の現状. 日重症心身障害会誌 2011; 36: 19-25.
- 4) 旧療養所型病院の活性化方策に関する検討会. 重症心身障害・筋ジストロフィー部会報告書「障害者医療を担う施設の今後の基本的方向性」. 2008.
- 5) 後藤一也. NHO 重症児施設における短期入所受け入れの実態調査. 第66回国立病院総合医学会 2012; 神戸市.
- 6) 平松公三郎. 重症心身障害児施設での卒後臨床研修の意義. 医療 2007; 61: 731-6.
- 7) 矢崎義雄. 臨床研修終了後の教育 国立病院機構の対応. 日医師会誌 2006; 135: 588-91.
- 8) 小林信や. 医師臨床研修における「人間性の涵養」-重症心身障害医療の研修-. 医療の広場 2006; 46: 4-7.
- 9) 武井研二. 重症心身障害児施設が医師臨床研修地域保健医療を引き受けて. 日重症心身障害会誌 2007; 32: 337-41.
- 10) 小林信や. エディトリアル いま, 重症心身障害医療を考える. 医療 2007; 61: 703.
- 11) 石田修一. 重症心身障害医療に求められる主治医像 医師の専門性・業務内容から. 医療 2007; 61: 726-30.
- 12) 三浦清邦. 地域で生活している重症心身障害のある人への医療の実態に関する調査-医療状況と医療機関利用状況について. 日重症心身障害会誌 2009; 34: 161-70.
- 13) 平松公三郎, 馬場輝美子, 本山和徳ほか. 卒後臨床研修への重症心身障害医療研修プログラム提示の試み-九州管内国立病院機構臨床研修制度検討会の活動をとおして-. 日重症心身障害会誌 2004;

Questionnaire Survey of Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID) Medicine Clinical Practice and Medical Students for Clinical Training Programs

Shinya Kobayashi, Kozaburo Hiramatsu, Yukihiro Nishimoto, Chie Aita, Shuichi Ishida
Michiko Inoue, Yoko Osaka, Tomohiko Sato, Noboru Takizawa, Itaru Funakawa, Shunji Matsuda
Shigenori Yamamoto, Hiromichi Yokoi, Takeshi Miyanomae, and Yoshinobu Nakagawa
(working group to promote the clinical practice of SMID medicine)

Abstract

To determine actual conditions of the Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID) medicine clinical practice and medical students for clinical training, follow-up questionnaires were sent to National Hospital Organization (NHO) hospitals and National Center of Neurology and Psychiatry. One hundred and forty three NHO hospitals and National Center of Neurology and Psychiatry were surveyed for a total of 144 institutions. The survey period was from August 1 through August 31, 2012.

The questionnaire showed that 38% of the hospitals practicing SMID medicine reported over 30% of their SMID patients suffered from serious SMID illnesses. Fifty-seven percent of the hospitals practicing SMID medicine were accepting clinical practice and medical students for clinical training, community medicine, etc. Although the hospitals practicing SMID medicine accepted a healthy number of doctors from non-NHO hospitals, they received few dispatches from NHO hospitals with a nuclear-type program for clinical training. It appears that NHO hospitals may be rather uninformed about the SMID medicine clinical program.

It is important to encourage more hospitals to adopt the SMID medicine clinical practice program, and more hospitals with a nuclear-type program for clinical training to dispatch doctors for the SMID medicine clinical practice.